

特集：鶏卵関係統計について

相場が動く場合の基本は需給関係ですが、それ以外に一時的な思惑により動くこともあります。前者はファンダメンタルズ、後者はテクニカルと呼ばれています。中長期的な相場の位置はファンダメンタルズによってレベル感が形成され短期的にもその時々需給関係から動きます。現物しかない相場関係では、圧倒的にファンダメンタルズの力が大きいと言われています。今回は鶏卵の相場を考察する上で、重要であるファンダメンタルズについて考えてみます。

ファンダメンタルズである需給関係に影響を与える要因には次の様なものが考えられます。またこれらの要因を示す統計類には以下の様なものがあります。

① 需要の要因

- 1) 人口の増減：総務省統計局、人口推計 平
成 20 年 128, 084 千人をピークに減少傾向、少子高齢化傾向が始まっています。外国人人口、インバウンド人口などが現状の傾向にどの程度影響を与えるかがポイントです。

<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.htm>

- 2) 消費の増減：総務省統計局 家計調査 家計消費
二人以上の世帯景気による可処分所得、消費金額、食料消費金額の動向であり、殆どの食品の種類について、家計単位での月々の購入数量、金額等も公表されております。

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001143492>

- 3) 鶏卵関係製品の増減：全国マヨネーズ・ドレッシング類協会

鶏卵関係製品では唯一マヨネーズ生産量が公表されている。鶏卵製品ではゆで卵等ではサイズによる需要が、サイズの相場にも影響しています。コンビニ向けスイーツの開発に見られる卵加工品の拡大化などについては今後も鶏卵需要の一因となるでしょう。

<http://www.mayonnaise.org/data/>

4) 輸出の増減：財務省貿易統計 品別国別表 条件入力

毎月税関より輸出・輸入の数量/金額が公表されています。但し1回の通関時に20万円以下の場合には公表されないため、鶏卵のシンガポール向けは昨年も実際に輸出されていますが、貿易統計上はゼロとなっています。今後は香港向け拡大、台湾向け輸出開始による輸出増が望めますが、貿易単価（FOB 価格）の推移にも要注目です。また殻付卵ベースで年間10～15万トンある輸入数量と輸出数量がどこまで縮まるかにも注目です。

<http://www.customs.go.jp/toukei/srch/index.htm?M=01&P=0>

【主要項目の関税番号】 この関税番号で検索できます。

- ・ 殻付卵：0407.21-000
- ・ 卵黄粉：0408.11-000
- ・ 凍結卵黄：0408.19-000
- ・ 全卵粉：0408.91-000
- ・ 凍結全卵：0408.99-000
- ・ 卵白粉：3502.11-000
- ・ 凍結卵白：3502.19-000

5) 健康志向の変化：コレステロール呪縛・誤解の解消が進みつつあり、卵1日1個以上摂取するという傾向が進みつつあります。また卵ダイエットや他のタンパク食品（特に肉類需要）との競合なども大きな要素です。米国では確実に他のタンパク食品に対して卵が最も経済的であるという評価から近年では一人当たりの摂取量が増加傾向にあります。

6) 海外動向：海外の鶏卵産地での大規模な鳥インフルエンザ災害により鶏卵・鶏卵製品の貿易地図が大きく変わります。この意味からは従来は世界中どこでも「地産地消」型であった鶏卵産業にもグローバル化の波が押し寄せてきているということでしょうか。

② 供給の要因

1) 生産量の増減：農林水産省 鶏卵流通統計

年 1 回公表される都道府県別鶏卵生産量、出荷量、入荷量の統計。平成 4 年に鶏卵生産量が 250 万トン台達して以来、ほぼ 250 万トン台を推移しています。（平成 16-18 年は 250 万トン台を若干下回りました）

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001136744>

2) 羽数の増減：農林水産省 畜産統計

原則的に年 1 回、2 月 1 日現在での飼養農家戸数、めす羽数などが都道府県別に発表されます。但し国勢調査年には鶏卵飼養羽数の調査が行われません。

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001127029>

3) 餌付羽数の増減：日本種鶏孵卵協会

日本種鶏孵卵協会が会員よりの報告をもとに公表している雛餌付羽数。先行きの羽数の増減傾向を示すものとされています。

<http://www.syukeifuran.or.jp/official/statistics.html>)

4) 飼料出荷量：農林水産省 生産局 畜産部 飼料月報

生産局が畜種ごとにまとめる月々の飼料生産・出荷数量を公表しています。飼料産業の中での配合飼料生産量では採卵鶏用が最大数量となっています。

http://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryu/index.html)

5) コストの増減：飼料価格は国際穀物相場・円ドル関係によって大きくかわりますので、この 2 つの相場推移には要注目です。その他の資材価格、運送料、人件費等の増減も鶏卵相場に影響を与えます。

参照：鶏卵生産コストの国際比較チャート（付録①、②）

6) 生産性の動向：時間がかかりますが種鶏メーカーによる種鶏改良や、設備業者による鶏舎・設備改良、飼料メーカーによる飼料品質の改良、動物薬メーカーによるワクチンの改善等が養鶏業界の生産性改善に寄与しています。

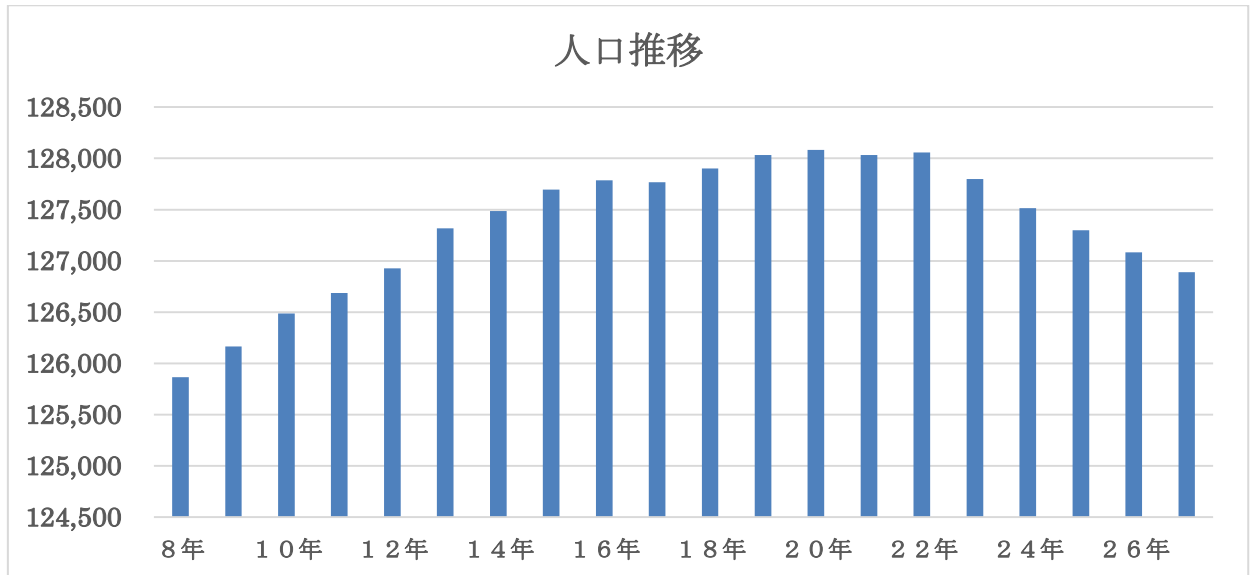
- 7) 気象の変化：熱波による死亡鶏の増加から夏場以降の生産量が減少した年もあります。また雪害や豪雨被害等が鶏卵生産に影響を与えることもあります。
- 8) 地震等の天災：東北大震災では一部の農場では倒壊による被害があり、また飼料工場の操業停止や飼料輸送の停止などがあり、関東地区への鶏卵入荷が激減したことから、相場は急騰しました。
- 9) 輸入の増減：前述①－4) 貿易統計で輸入数量の検索ができます。
- 10) 鶏病の動向：国内での AI や伝染病などによる羽数の減少があります。

鶏卵関係計数推移：過去 20 年間での年間の主要計数は以下となります。

	生産量		雛餌付羽数(出荷)		家計消費量		配合飼料出荷量	
	数量 (ト)	前年比	数量 (千羽)	前年比	一人当たり		成鶏用 数量 (千ト)	前年比
					数量 (グラム)	前年比		
7年	2,550,586	99.3%	105,662	99.9%	10,735	100.1%	6,240	99.9%
8年	2,567,150	100.6%	108,573	102.8%	10,754	100.2%	6,275	100.6%
9年	2,566,119	100.0%	107,998	99.5%	10,719	99.7%	6,248	99.6%
10年	2,542,465	99.1%	103,405	95.7%	10,481	97.8%	6,075	97.2%
11年	2,535,655	99.7%	105,391	101.9%	10,450	99.7%	6,009	98.9%
12年	2,540,075	100.2%	109,867	104.2%	10,438	99.9%	6,052	100.7%
13年	2,526,782	99.5%	110,806	100.9%	10,453	100.1%	6,140	101.5%
14年	2,528,902	100.1%	111,523	100.6%	10,342	98.9%	6,182	100.7%
15年	2,529,128	100.0%	110,111	98.7%	10,208	98.7%	6,130	99.2%
16年	2,490,680	98.5%	104,992	95.4%	9,679	94.8%	5,770	94.1%
17年	2,481,000	99.6%	109,801	104.6%	9,766	100.9%	5,788	100.3%
18年	2,487,696	100.3%	107,679	98.1%	9,899	101.4%	5,826	100.7%
19年	2,583,292	103.8%	107,626	100.0%	9,885	99.9%	5,878	100.9%
20年	2,553,557	98.8%	102,445	95.2%	10,077	101.9%	5,731	97.5%
21年	2,507,542	98.2%	102,454	100.0%	9,988	99.1%	5,673	99.0%
22年	2,515,323	100.3%	101,829	99.4%	10,100	101.1%	5,643	99.5%
23年	2,482,628	98.7%	99,407	97.6%	10,008	99.1%	5,560	98.5%
24年	2,506,768	101.0%	96,615	97.2%	10,049	100.4%	5,531	99.5%
25年	2,521,974	100.6%	95,523	98.9%	9,802	97.5%	5,472	98.9%
26年	2,501,921	99.2%	102,243	107.0%	9,885	100.8%	5,586	102.1%
27年			103,753	101.5%	9,901	100.2%	5,573	99.8%

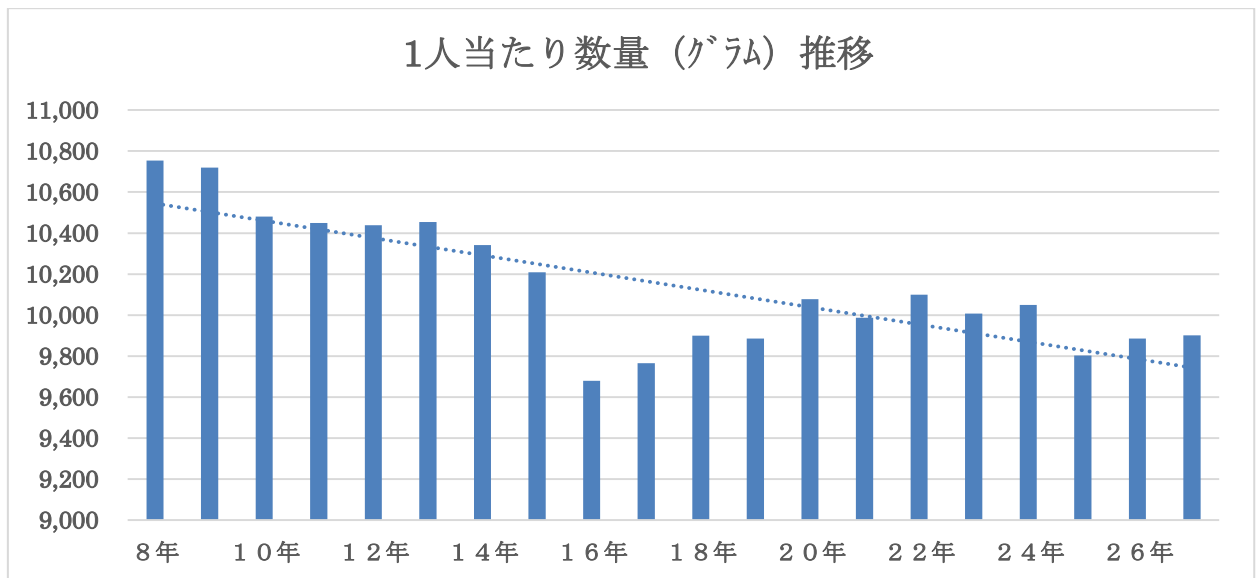
また過去 20 年間につき主要項目ごとのチャートは以下となります。

① -1) 人口推移



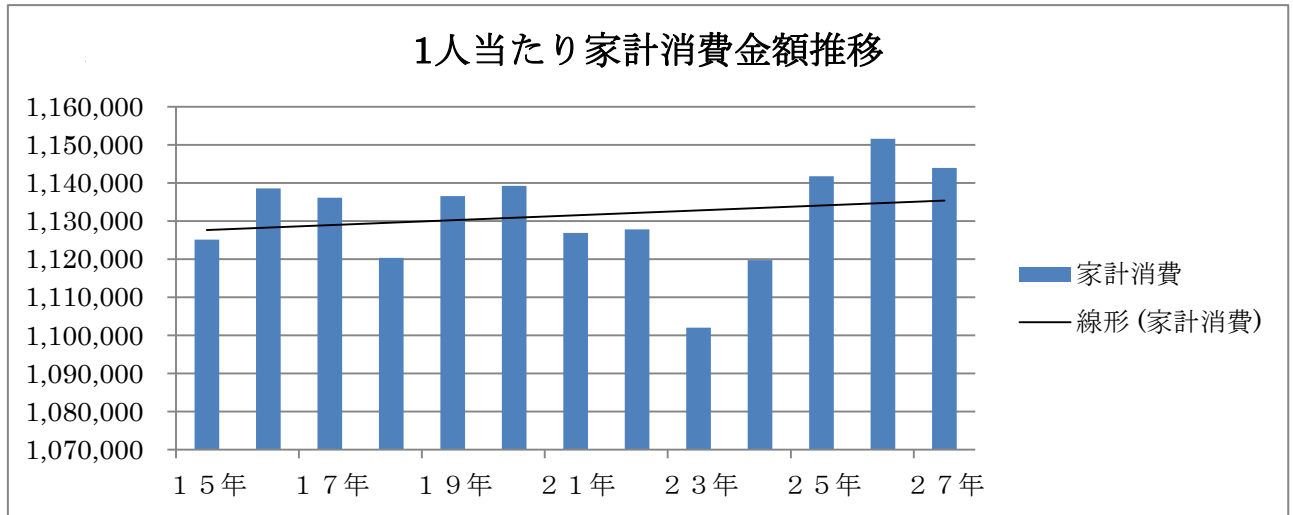
平成 20 年の 128 百万人がピークとなって、既に減少傾向となっております。

① -2) 鶏卵家計消費量推移



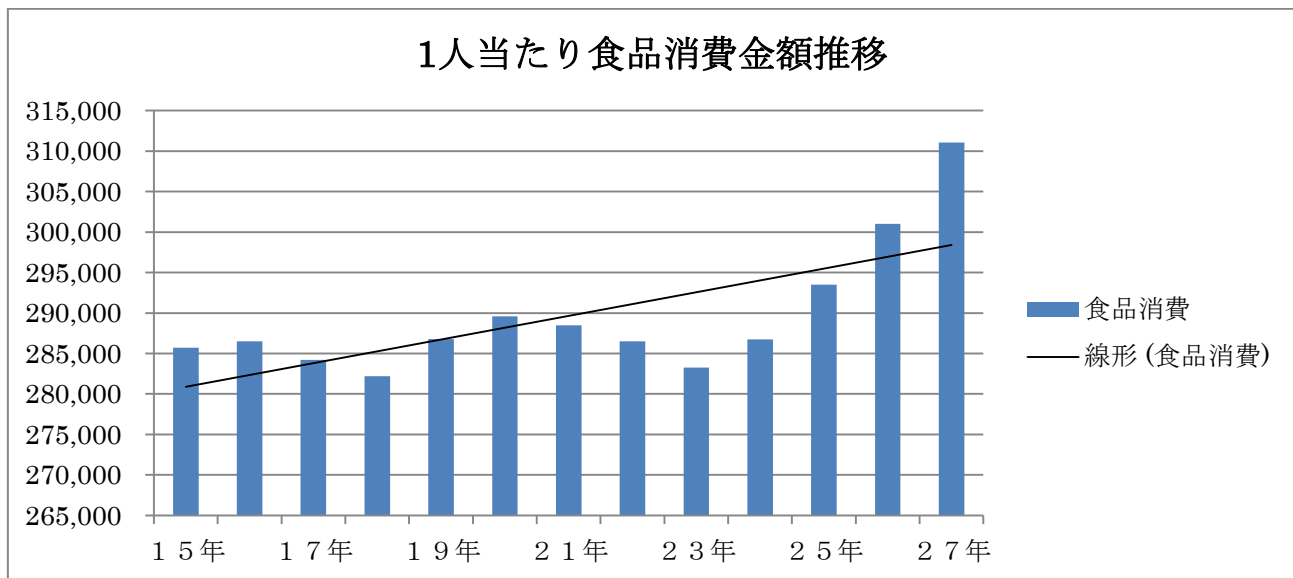
平成 16 年は 79 年ぶりの AI により、全国的に消費が大幅に減退しましたが、その後 4 年かけて 1 人 10Kg 台を回復しましたが、中期的トレンドでは減少傾向となっています。

① - 2) 鶏卵家計消費量推移 (一人当たり家計消費金額推移/10 年間)



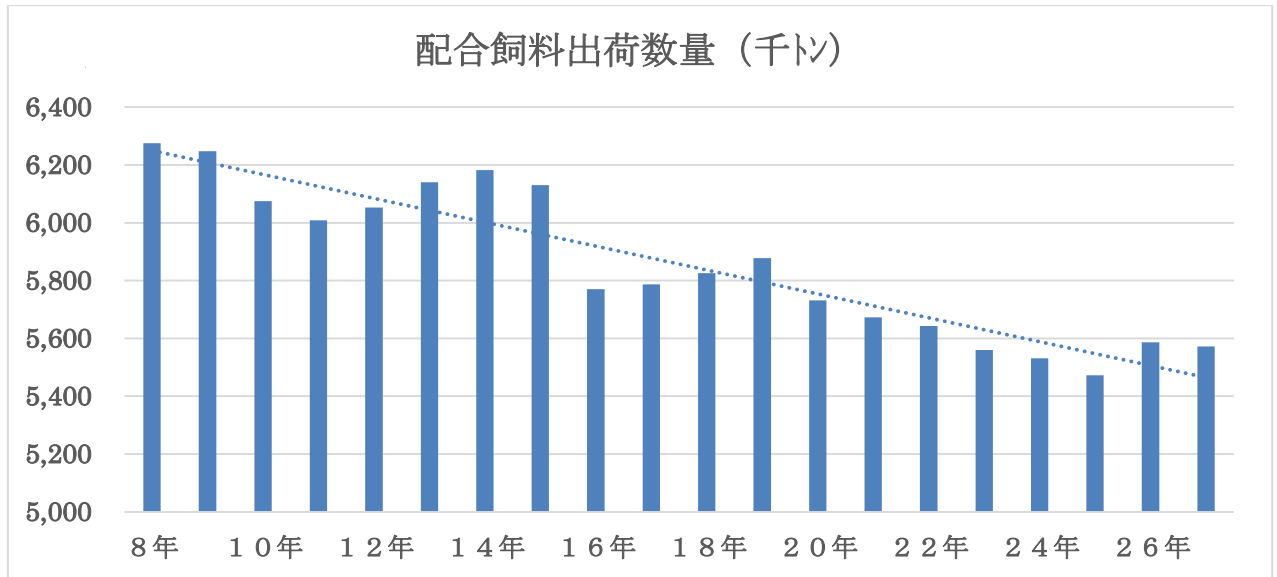
家計消費統計の過去 10 年間の一人当たり家計消費金額はわずかながらの上昇傾向を示しています。

① - 2) 鶏卵家計消費量推移 (一人当たり食品消費金額推移/10 年)



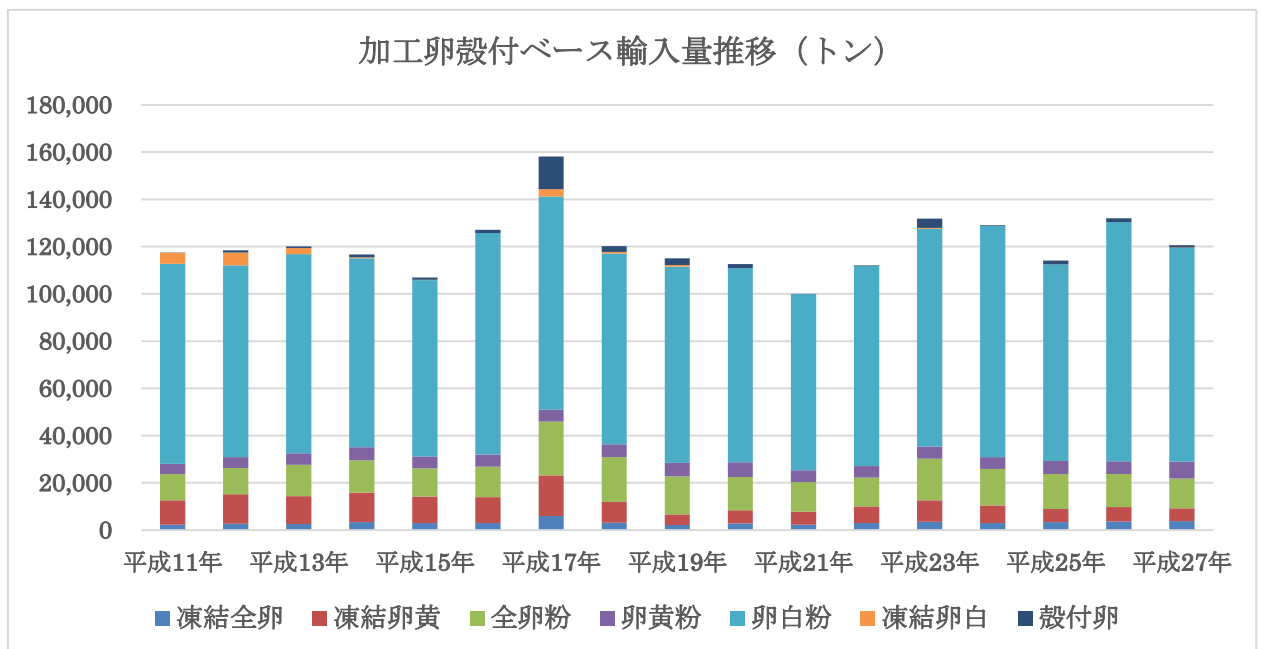
東北大震災があった平成 23 年には家計消費/食品消費ともに減少しましたが、過去 3 年間で一人当たりの食品消費金額は上昇傾向となっており、年間 31 万円を越えています。

② -4) 配合飼料出荷量推移



この 20 年間で配合飼料出荷量の減少が 11% も落ちていますが、この間の鶏卵生産量の減少は 2% 程度となっており、FCR の改善が進んだと言えます。

② -9) 加工卵輸入殻付卵ベース推移



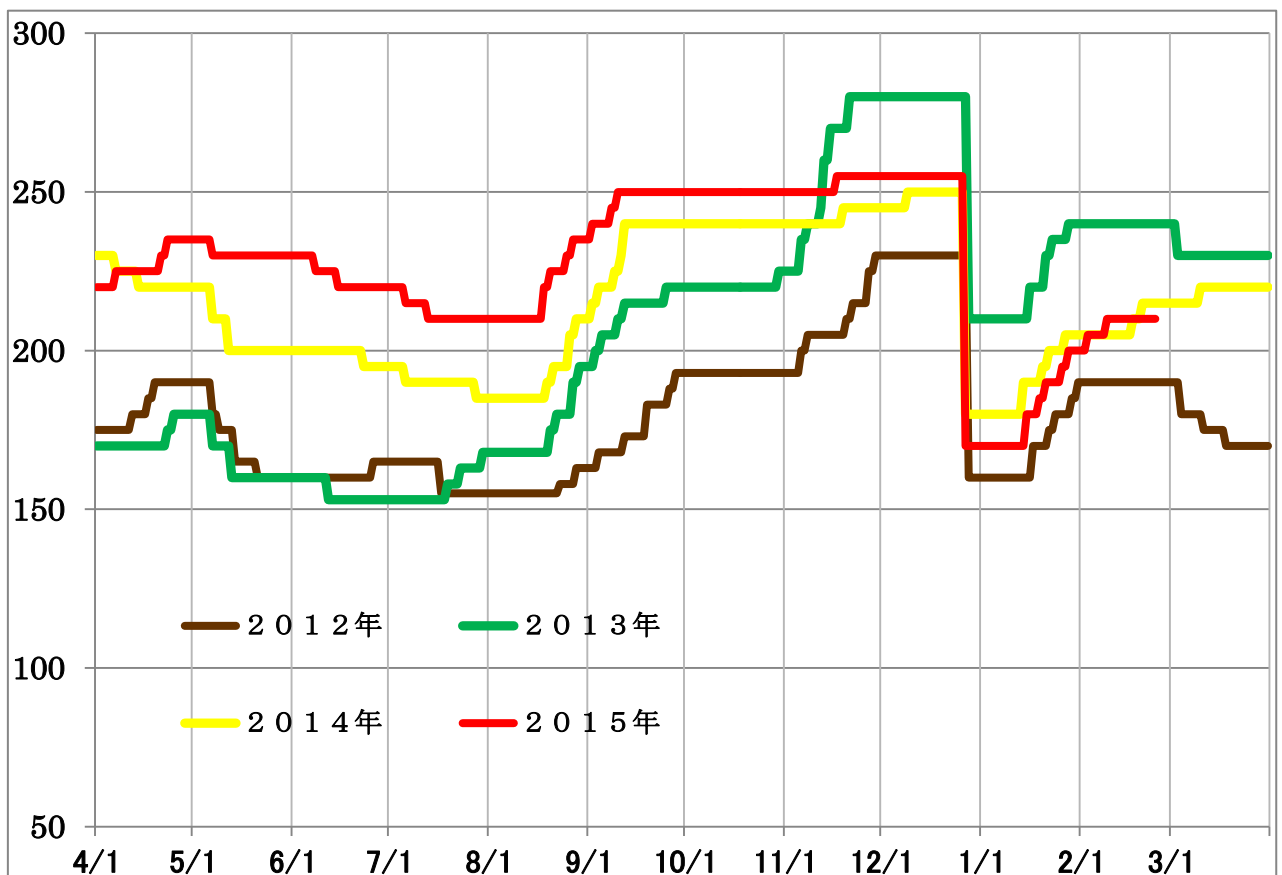
加工卵輸入の内、卵白粉が全体の 8 割近くを占めます。低卵価の平成 15 年（東京全農 M151 円）、平成 21 年（175 円）には輸入量が減少しています。

【相場動向】過去 10 年間の 1 月相場

	平均値	高値	安値
平成19年	157	180	145
平成20年	135	165	115
平成21年	149	180	125
平成22年	151	185	125
平成23年	184	200	170
平成24年	149	185	120
平成25年	171	190	160
平成26年	224	240	210
平成27年	192	205	180
平成28年	182	200	170
平均値	169	193	152

平成 28 年 1 月の鶏卵相場（東京全農 M サイズ）は 182 円となりました。これは昨年の 192 円よりは 10 円安くなり、先月の平均値 255 円より 73 円安くなりました。1 月の相場としては平成 26 年 224 円から 2 年連続さげています。また前月対比 73 円下がった 1 月相場は、この 10 年間で最大の下げ幅となりました。

【鶏卵相場推移 2012 年～2015 年 会計年度 東京全農 M サイズ 円/Kg】



1 月、2 月とも過去 2 年間よりは低いレベルで推移しています。

【鶏卵関係主要計数】平成 27 年の 1 年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	東京全農M	前年
27年1月	8,506	109.5%	462	99.9%	765	96.4%	192	224
2月	8,273	102.6%	449	101.4%	819	101.9%	209	240
3月	9,263	107.3%	480	97.3%	851	103.6%	219	230
4月	8,411	95.9%	479	103.5%	838	107.0%	227	223
5月	8,989	101.6%	451	94.9%	856	100.0%	230	204
6月	9,084	102.8%	454	101.6%	803	94.5%	223	199
7月	8,831	99.6%	461	102.3%	818	101.1%	213	190
8月	7,502	103.0%	427	100.2%	805	100.5%	219	192
9月	8,444	95.6%	455	101.0%	802	97.2%	247	231
10月	8,862	104.3%	476	97.6%	851	103.9%	250	240
11月	8,518	104.7%	461	101.6%	842	99.8%	252	242
12月	9,070	103.0%	518	97.1%	850	96.7%	255	248
1年間小計	103,753	101.5%	5,573	99.8%	9,901	100.2%	228	222

雛餌付羽数は10月以降3か月連続で、前年同月対比増となっており、この3か月を前年同期対比で見ると、104.0%という増加になっています。春先以降にこの餌付羽数増加の効果が出てくるのでしょうか。12月の配合飼料出荷量が前年同月対比減ったこともあり、年間通して99.8%とほぼ前年並みとなりました。12月の、一人当たり家計消費量は前年同月比3.3%落ち、2か月連続の前年同月比が落ちたことが気になります。

【協会活動報告】 [\(下線色付き部分はホームページに連結\)](#)

①各種事業についての報告

[\(1\) 鶏卵生産者経営安定対策事業](#)

1) 価格差補填事業の事業参加者との契約数量(月当たりト)

平成25年度	164,822
平成26年度	160,792
平成27年度	161,936

・1月の標準取引価格173.55円/Kg(補填13.005円/今年度では初めて)

[\(2\) 国産鶏卵に関する普及啓発事業委員会](#)

・2月24日に本年度第7回目会議が開催されました。席上、平成27年度の個々の事業についての総括がなされ、27年度のネット志向方針が平成28年度の事業にも引き継がれることになりました。また「いいたまごの日」を極力盛り上げるべく、今までにないイベント規模にする方向で検討されました。

(3) 畜産物輸出特別支援事業

- ・2月16日に第3回輸出先調査検討委員会を開催し、12月の香港フードフェスティバル報告を踏まえて、今後の活動について検討を行いました。
- ・同日開催された第5回理事会において、今後の日程が決定されるとともに、海外出張時において、国の事業から支払われない保険負担等につき分科会負担とすることが決定されました。
- ・平成27年度畜産物輸出特別支援事業として、分科会では2月下旬に台湾に10名の調査団を送ることとしました。また3月初旬に香港において、「日本のたまご」セミナーを行い情報発信を行う様働きかけることとしました。

②会議等

(1) 正副会長会議、理事会

2月10日に第7回の正副会長会議、理事会が開催されました。引き続き当協会の取組むべき課題について真剣な検討が行われました。

(2) 審議委員会

2月9日に第4回目審議委員会が開催され、平成28年度の鶏卵生産者安定対策事業について、検討が行われました。

(3) 国際競争力強化委員会

2月18日に開催され、今後の議題、議事の進め方が検討されました。

(4) 鳥インフルエンザ問題対策委員会

2月24日に第3回目が開催され、岡山県と宮崎県の家畜保健衛生所の方々から過去に起こったAIでの実務、実態につき詳しい説明を聞きました。

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

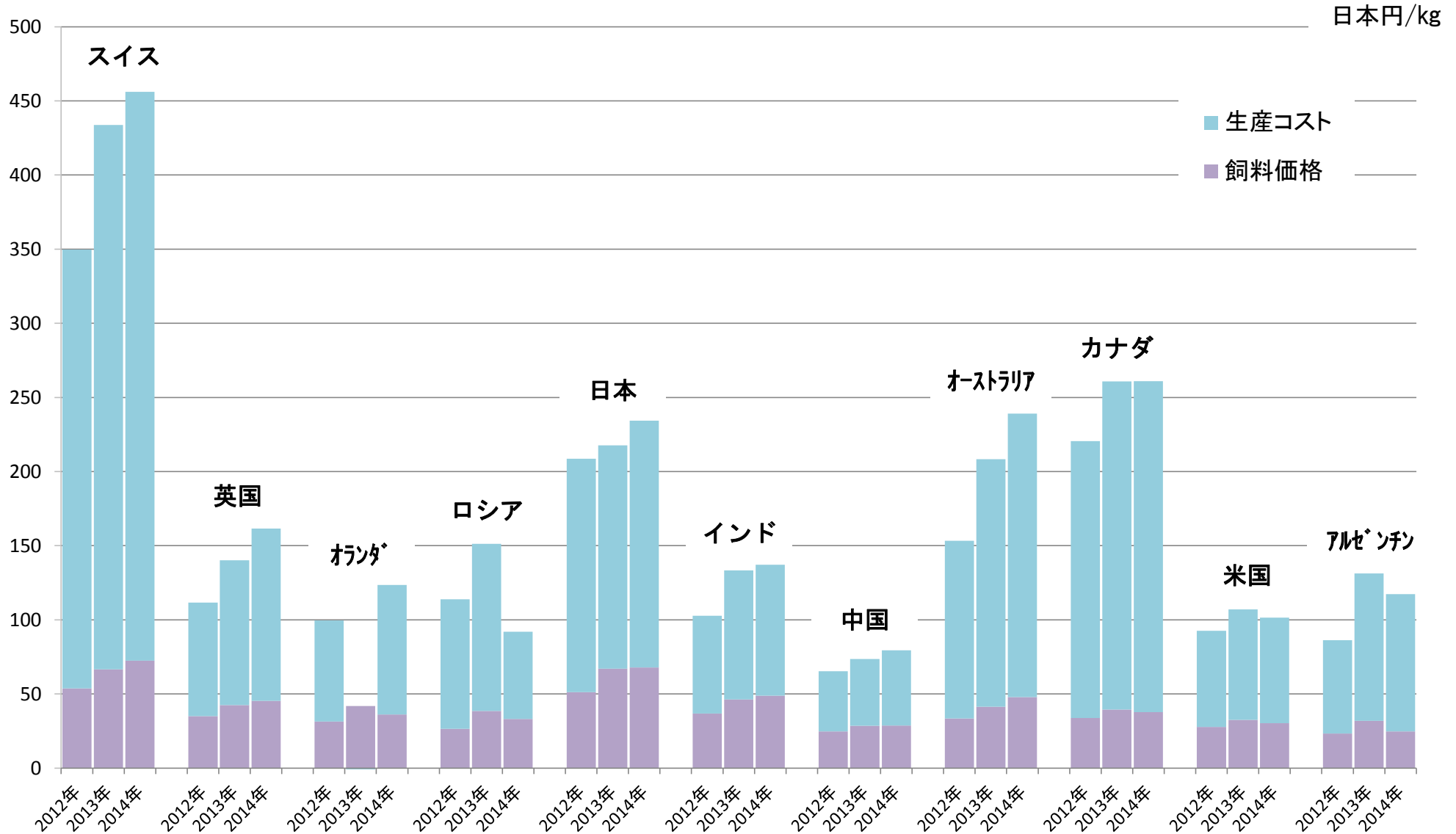
〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号馬事畜産会館内 (5階)

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2016年2月26日

編集・発行責任者：島田博 (fuwatama@jpa.or.jp)

鶏卵生産コストの国際比較 <日本円ベース>

(資料: 鶏鳴新聞がIEC統計から集計したもの)



鶏卵生産コストの国際比較 <米ドルベース>

(資料: 鶏鳴新聞がIEC統計から集計したもの)

米ドル/kg

